

## JAC北九だより NO.28

社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:秦野一彦

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

#### 日本山岳会北九州支部 2006年度

### 第7回通常総会開催のお知らせ

北九州支部では、2006年度の総会を次のとおり開催いたします。 当日は記念イベントで、九重の法華院温泉山荘の主人、弘蔵岳久氏の講演や懇親会も予定して おりますので、何とぞご出席いただきますようお願いいたします。

1 日 時 平成18年4月22日(土)

受 付 午後1時30分から

総 会 午後2時~午後3時

記念講演 午後3時~午後5時

「法華院温泉山荘の歴史と未来」 講師 弘 蔵 岳 久 氏

(有限会社 法華院温泉山荘 代表取締役)

懇 親 会 午後5時~午後6時30分

- 2 会 場 北九州市八幡東区大谷1丁目2-4 大 谷 会 館 TEL 093-671-0129
- 3 会費 1人 5,000円
- 4 締 切 出欠のご返事は、案内状(後日郵送)同封のハガキで4月15日(土)まで(当日消印)
- 5 問い合わせ 事務局 関口興洋 (TEL/FAX 093-382-6436 携帯 090-8919-6776)

## 九州山岳界の先達を想う

No.11454 井 上 佑

正月早々、永年会員三日月直之(1654、福岡支部)先輩から電話があった。喪中で賀状を遠慮したとのこと。また、『窓の山稜』を送呈したかどうか、忘れたとのことであった。北九州支部が発足するまでは、福岡支部総会懇親会で親しくご教示を頂き、自宅に訪ねて昔の話をお聞きした。『窓の山稜』は2002年6月に葦書房から発行されたが改めて読み返してみた。

三日月さんは、田川中学在学の頃から春冬の北アルプスに登っている。鳥取高等農林学校を卒業後、加藤数功に請われ21歳で筑紫山岳会会長代行、九州山岳連盟常任委員になり岳連を牽引する。昭和7年、筑紫山岳会でカムチャッカのクリュチェフスカヤ(4150〜〜〜)遠征を企画。北洋蟹漁へ魚網を供給する運搬船で現地に渡航する計画である。蟹漁の網は修理する暇がないので、痛むと交換し破れた網は持ち帰る。加藤・三日月は下関市岬之町の日本魚網の本社を訪ねる。応接間にはベーリング海域の大きな地図が張ってあった。工場長である城山正三は下関山岳会の創立者三人の一人であり、日本魚網トップの城山保次郎専務は義父であった。城山正三は昭和9年、日本山岳会に入る、会員番号1509、下関山岳会から最初の入会者である。昭和3



犬ヶ岳の筑紫石楠花天然記念物指定予備調査。一の岳山上展望台下で。左から加藤数功(筑紫山岳会々長)、松本唯一(明治専門学校教授)、著者三日月直之(中央白いハンチングをかぶっている、県立築上高女教論)。松本唯一氏のすぐ右は、仲嘉三郎氏、他二名は地元岩屋村の村民。昭和10年冬、積雪20センチ。(写真と説明は、三日月直之著「窓の山稜」より)

年、『改造』新年号に「ツンドラの国」を発表、昭和8年、 『山と渓谷』3月号に「カムチャッカの山岳」を執筆し ており、この計画は城山が立案したもので、これに筑紫 山岳会が乗ったものである。5人をカムチャッカまでの 往復無償で乗せると話はまとまった。三日月さんは渉外 担当として東京に行き、ソ連大使館の意向を調べたが、 前年の満州事変でソ連は警戒しており、ペトロバブロフ スク港なら上陸させるが、内陸の山などとんでもないと、 ビザは出ずにこの計画は実現しなかった。昭和11年8月、 東京で朋文堂の新島章男に『九州山岳』の編集を頼まれ、 九州の有名登山家25名に執筆を割り当て、原稿を集め、 10月15日には第1輯が発行された。下関山岳会からは 勝間健之助が「山を去る」「九重のいで湯」を、若山武雄 が「鷲ヶ峯の乙女」を執筆している。第2輯は昭和13年 1月発行され「阿蘇野」を勝間は記している。三日月さん は戦中では台湾拓殖会社でエリートとして仕事に邁進し ている。また台湾で正月の新高山・南天武山・合歓山・ 次高山・大覇尖山やキナバル山にも登っておられる。三 日月さんが台湾に行かれた後、昭和16年2月、大山で日 本岳連冬季登山錬成会が藤木九三、今西錦司を講師とし て行われ、11月、日本岳連・九州岳連主催の指導者錬 成会が、英彦山~犬ヶ岳で藤木九三・加藤数功・橋本 三八をリーダーとして実行、取材の毎日新聞記者がバテ て、途中で下山するハプニングもあった。

昭和21年6月、朝日新聞西部本社の要請で九州山岳連盟の再建に取組む。西部本社に北九州・福岡・久留米・佐賀・大分・九重・中津・直方・下関の各地山岳会代表が集まり、司会三日月で行われた。22年6月、『九州の山ガイドブック』発行。リーダー養成会を霧島連山で行い、大山でスキー講習会、屋久島遠征、と続くが、今は亡き、戸畑の月原俊二(永年会員)先輩は後年私に、フィリピンから引揚げたばかりで、金も食い物も無く屋久島には行きたくなかったが、無理やり連れられて行かれ

たと云っていた。九州各県に山岳連盟を設立するのも九 州岳連の最終目標だった。昭和23年に第3回国民体育大 会が福岡で行われることになり、その山岳部門実施のた め、4月、福岡県山岳連盟が発足した。これらの全て作 業を三日月さんが中心になり、推進されたのであった。 これ等の役員に月原さんや、福岡山の会の村上巌さんが 居られた。九州岳連に出ていた下関山岳会の勝間健之助 はこの動きを読み、山口県山岳連盟の構想を描き、この 実施を岡本包夫に依頼した。昭和13年に下関山岳徒歩連 盟を組織していたが、終戦で瓦解していた。昭和23年9 月、14団体の加盟で山口県山岳連盟は発足した。これに より、県岳連の選定により下関山岳会から若山・宮崎・ 藤本・山路の4名が久住での国体に出場した。月原さん は戸畑で好山荘を営み、戸畑山岳会の会長でした。下関 の勝間は戸畑山岳会のリーダーでもあり、下関山岳会の 牽引者だった。勝間は好山荘で中古のピッケル・アイゼ ン・登山靴を仕入れて下関山岳会の新人に頒っていた。 月原さんは、勝間さんを無口だが尊敬していたと話され た。先年、筑紫山岳会が「あせび小屋」を建てていた、 これに刺激され下関山岳会も小屋を持ちたいと願望をも っていたが、昭和24年10月、四王司山麓に「くるみ小 屋」が完成、現在、鬼ヶ城下の小屋は二代目になる。月 原さんが永年会員になったお祝いが、吉村健児福岡支部 長宅で行なわれたのも思い出のひとつである。

村上 巌さんは、福岡山の会発足の数年後に入会され、70年は在籍されたであろう。福岡支部の集会等で戦前の福岡山の会と下関山岳会の交流をお聞きしたところ、その後も、会報『せふり』の関連部のコピーを度々送ってくださった。北九州支部の発足により、村上さんに逢うことも無くなり、年賀状だけの通信になり『山岳』98の「追悼」で95歳をまっとうされたのを知った次第で、あらためてご冥福を祈りたい。

# 1月 支部山行 野間岳・開聞岳登山に参加して① ウォーミングアップは 野間岳で

北九356 坂 本 勝 喜



九州百名山「野間岳」(591m)山頂にて

1月14日(土)、 朝7時、小倉駅北口 前広場に集合。天候 は雨。しかし鹿児島 は午後から回復する と知っていたので悲 観はなし。

開聞岳を目標とす る山行に参加するの はこれが二度目。一度目の一昨年の1 月は天候悪く、九重に計画が変更になった。そして雪の九重を体験したのだった。身を切るような風雪、パウダースノー。あれはあれて楽しかった。

どうやら今回は開聞岳に登れるようだ。この山は名前がいい。漢字で見てもいいし、韻もいい。カイモンダケの「カイ」は「海」という先入観があったが、今回の山行で訂正された。ただ事典を読むと、「鹿児島湾に入る船の目標として古くから『海門の山』として崇められた」とある。とすれば「海門岳」の意も含まれているのだろう。



一日目は、野間岳登山。西村信子SLも登ったことがないという山。標高591m。30分足らずで山頂に到達。ウォーミングアップには最適と思われた。小さな山だが地元の人には愛されているようで、登山道もよく整備されている。

宿は国民宿舎「かいもん荘」。午後6 時過ぎ宿に着いて、温泉で汗を流す。 湯は茶濁しており、室内にはなにやら 日本茶のいい香りがする。湯を口に含 むと塩辛い。海水の味だ。海の側だか らだろう。体を洗っていたら、「すいま せん」と背後から声が掛かり、刺青を した両腕が伸びてきて、ボディーソー プの液を掌にとっていった。鏡で背後 を見ると、膝から上にびっしり刺青を したお兄さんが体を洗っている。体表 の大部分に刺青をした人と風呂で出会 うのは初めての経験。他の客も口数が 少ないようだ。

夕食は品数多く、私にはゴーカに思えた。夕食後、ミーティング。ここで神氏持参の沖縄焼酎「どなん」が登場。その存在は既にバスの中で語られていたが、60度という強烈さ。分けてもらって生で飲む。口中がカーとする。うまい。焼酎は本当は生で飲むべきではないのか。ミーティングは「どなん」の存在にもかかわらず自己紹介を中心にして真面目に展開。9時半で終了。

十時から始まる、今夜が第一回というドラマ「氷壁」を、関口さんは見たいと言って風呂に行った。私もそのつもりだったが、蒲団に横になると眠くなった。大楠さんは既に寝てしまった。私も目を閉じた。関口さんは我々に遠慮して「氷壁」はあきらめたとのこと。スイマセン。

15日(日)は6時に起床。朝風呂で目を覚ます。6時45分に朝食をとり、出発。いよいよ開聞岳に登る。この山は姿がいい。「薩摩富士」とも呼ばれる。日本百名山の一つと聞き、意欲が高まる。

8時、登山道に入る。7合目を過ぎ て岩場が始まる。これがなかなかの難 コース。雨で湿り、苔の生えた岩は滑 りそうで、少しビビル。不必要に腰が 下がり、足運びが小さくなる。スティ ック(ストックに同じ)が使いにくい。 後ろを歩く大楠、榊両氏からアドバイ スをいただく。テキメンだ。足許が要 注意の上に景観が開けないので、下を 向いて黙々と登る。しかし、不意に眺 望が開ける個所が数箇所ある。その時 はしばし目を奪われる。10時25分、 山頂に到達。眼下に広がる田園、南に 東シナ海、北に池田湖、西に太平洋と、 360度の眺望はすばらしい。昨日登っ た野間岳もかすんで見えたか。ただ、 寒い。気温は7度。風もある。長くは いられない。20分ほど山頂で過ごし て下山開始。昼食は下山してから。同 じ道を下るのだが、下りの方がスべる 危険は大きく、岩場はやはりスリルと サスペンス満点。私の後ろを歩いてい た中山氏が足を滑らせた。振り返ると 倒れた中山氏はそのまま斜面に滑り落 ちた。中山氏の後を歩いていた榊氏が 救助に斜面を下りる。中山氏に言わせ れば2、30m、斜面を落下したという が、実際は3mほど。(榊氏曰く、彼の 話は3分の1程度に聞いておけばい い。) 幸い、怪我はなかったようだが、 やはり驚いた。緊張が更に加わった。 足許を注視しながら黙々と下りる。こ



皆さん、盛んに焼酎を試飲しています

の山はただ歩くだけで、面白くも何ともない山だと榊氏が言う。地元には開聞岳に「登らぬ馬鹿、二度登る馬鹿」という言葉があるらしい。榊氏は今回で3度目だという。2度目の時にもう登ることはないと思ったというのに、なぜ? どうも今回は某氏から声が掛かり、員数合わせのために駆り出されたらしい。(有難うございます。おかげで登れました。)

この山が百名山に入れられたのはやはりその姿の美しさ、山頂からの眺めのよさのためではなかろうか。妻は面白いと言っていたが、山登りの面白さは中程度と私は思う。登りの途中、雨がパラついたが、その後は降らなかったのは幸いだった。

今回の山行は膝も痛まず無事終える ことができ、よかったと思っています。 皆さん、お世話になりました。最後に 一言、緑川SAの「坂本ラーメン」は うまかった!



日本百名山「開聞岳」頂上で

#### 野間岳・開聞岳登山参加者 (20人)

CL 大楠益弘 SL 西村信子

1班 伊藤久次郎(班長) 関口興洋 室津健次(救急) 塩屋 薫(記録) 岩村瑛雄 石川信之 山下定治 山下富美子 小林冨雄

2班 浦田和夫(班長) 西村俊二 池田暁彦 坂本勝喜 坂本むつみ 榊 俊一 中山幸弘 立石サツミ(会計) 佐藤照美(会計)

### | 1月 支部山行|| 野間岳・開聞岳登山に参加して② 帰路は ただひたすらに飲む~アル中同好会

北九397 榊 俊

今回の山行きは、鹿児島県の野間 岳(591 M)と開聞岳(922 M) 登山総勢20名様御一行であります。

小倉駅北口を7時10分、小雨の 中を16名がマイクロバスに乗車し 出発、須惠SAで福岡地区の4名を 乗せて総勢20名が8時10分須惠 SAを出発しました。行きは知らな い人が多かった事や夜更かし、また 二日酔いの人などばらばらで全員お となしく居眠り状態で高速道路を進 んでいきました。途中加久藤トンネ ルをでると鹿児島方面の天候は晴れ ています。これならカッパを着なく てすみそうです。高速道路走行中に 昼食をマイクロバス車中ですませま す。車は高速から指宿スカイライン 谷山ICを出て、道を間違えるとい うハプニングがありましたが野間神 社駐車場に14時00分到着し、こ れより野間岳登山開始です。まずは これより無事に登山できるように野 間神社にお祈りして登ります。第一 展望所、第二展望所と通過しますが、 あいにく回りは霧がかかり見通しが 悪くただ登るだけ状態で約45分程 度で頂上到着です。ビールやウイス キー、お茶等各自水分補給して記念 写真を撮り下山開始となります。同 じ道を下山、野間神社駐車場に15 時35分到着、すぐにマイクロバス は本日の御宿である国民宿舎かいも ん荘へ出発です。海岸道路をくねく ね進み開聞町付近で開聞岳が見えて きました。さすがに開聞富士といわ れるだけあり美しい山の姿をしてい ます。明日の登山に期待をのせて国 民宿舎かいもん荘に18時10分到 着しました。夕食は18時45分か らということで早速汗くさい体を頭 より足の先まで温泉できれいに流 し、大都会の人間となり食堂に集合 ですがやはり女性がきていません、 洗うところが多いのだろうというこ とで、男性だけで早速ビールで乾杯 をしのどを潤しました。どこかのテ



薩摩焼酎の試飲コーナーで(筆者)

ーブルは個人的支払いでビールの追 加注文をしています。食後20時より 指示連絡があるまでの時間がもった いないということで、ある部屋では 反省検討会を行っています。20時に 全員集合し指示連絡があった後、各 自の自己紹介となりユーモアのある 司会者CL大楠氏のもと各自の話に 花が咲き楽しい会合となりました。 その後反省会が盛大に行われ、沖 縄の焼酎「どなん60°」等でわい わいとにぎやかに反省会が行われ ました。反省会が終了した後ある部 屋では反省がたりなかったようで、 再度反省会を行った部屋もあったそ うで、誠に立派な登山者魂の誉れ高 き者の集まりだったそうです。

1月15日(日) 6時45分より朝 食を取り、国民宿舎かいもん荘を 7 時20分出発、ふれあい公園に20分 程度で到着し準備体操を行い登山開 始です。天候はくもり。先頭SL西 村女史、1班伊藤Q氏、2班浦田氏の 順で列を組み最後はCL大楠氏で登っ ていきます。体よりビール、焼酎、 酒等が発散しています。火がつくか も火気厳禁。5合目くらいでアルコ ールがなくなり本格的な登山状態に なりました。(全員ではないですから 念のため)

この山の特長である周囲の見通し がまったくなく、ただダラダラと登 っていくだけのおもしろくないコー スです。7合目をすぎ岩場になって やっと錦江湾が見えてきました。開 聞岳頂上に10時25分到着ですが、

冷たい風が吹いています、全員防寒 着を着て寒さに耐えています。頂上 からは、錦江湾や池田湖が見えてい ます。(ネッシーは寒さで隠れて出て 来ません)

昼食の弁当は下山後に食べるとい う人が多いようですが、冷たい風の 中弁当を食べている人もいました。 10時40分寒い中、チーズの合い言 葉もなく記念集合写真を撮り45分下 山開始です。下山は登ってくる人が 多くなり離合のたび立ち止まり、時 間がすこしかかりましたが、けが人 もなく全員無事に下山し、マイクロ バスで再び国民宿舎かいもん荘につ き部屋で昼食を取った後、国民宿舎 かいもん荘と向かいの温泉センター のどちらの温泉も利用可で、各自汗 くさい登山者から、どちらかの温泉 に入りみがいた後、立派な紳士淑女 となりました。

国民宿舎かいもん荘の向かいの温 泉センターでは風呂のとなりに温泉 プールがあり昔、若かった女性がた くさん泳いでいました。でも女性と 風呂上がりのビールを掛けるとビー ルの方が勝ちをとりビールを買いに 走りのどを潤しました。昔は中洲の 「赤い灯、青い灯ともる街角で」、闊 歩したのに、今はビールの方が勝つ とは年を取ったのかな。!! さみ しい!! 国民宿舎かいもん荘を14 時35分出発し一路帰路につきます。 もちろん、今回はアル中同好会メン バーがいるため帰路の車中一部だけ 宴会状態です。途中池田湖、スカイ ライン、高速道路と向かっていまし たが、アル中同好会に刺激されたの か別メンバーからビールという声が かかりビール購入のため高速道路を いったん降りて、鹿児島空港に立ち 寄り再び高速道路で一路福岡県へ進 行します。帰りは居眠りもせずただ ひたすらに焼酎や酒を飲み続けた猛 者もいたとか。飲み続けたため須惠 SAの到着時間もわからず下車しま した。みなさんとまたの登山時に飲 みましょうと誓いながらおわかれを し、帰宅しました。

また、今回のような楽しい飲酒登山を したいなーと思いながら、おわります。

冠山(1339m、廿日市市吉和)山行記

#### 初体験! 雪上キャンプと雪山ワカン

No. 13987 宮 城 尚 志



冠山頂上にて 前列右から、篠田さん 太田さん 中村さん 原野さん 後列右から、原さん 本人宮城 西村主人 西村さん 内藤さん 森永さん

この度、当会役員の原さん、西村さ んのお誘いを受け、雪上キャンプとワ カン登山に初めてチャレンジすること ができました。

場所は広島県第二峰の冠山。6月の オオヤマレンゲでも有名な山で、今回 は、下関の篠田さんの計画です。

週半ばからの寒波で山は雪、わくわ くしながら2月4日(土)の当日を迎 えました。

参加者は、下関の篠田さん(CL)、中 村さん、森永さん、原さん、山口の原 野さん、内藤さん、九州から上野の太 田さん、豊津の西村さん夫妻と私の計 10名の参加で、午後4時前、広島県 の吉和インターから約15分で潮原温 泉先の登山口(タイヤ工場横)に到着、 直ぐに大荷物をみんなで手分けして、 テント場までボッカしました。雪もチ ラホラしており林道に入るとすぐに積 雪が軽く30センチはあります。しか し、人一倍大きなザックと両手に大荷 物を持った中村さんがラッセルしなが ら元気に先頭を進みます。(翌日の急坂 ラッセルも先頭引きでした。)

登山口から約20分で鉄橋横のテン ト場に着き、テント設営に取りかかり ます。テントは下関山岳会の10人用

と西村さん夫妻の4人用の2張。先輩 方は手慣れたもので、段取り良く設営 します。みんなの協力であっという間 に今宵の宿2棟が完成しました。この時、 テント場の整地方法、出入り口の向き、 竹ペグの使い方等雪上テントのコツを教 えて頂き大変勉強になりました。

午後5時過ぎにはみんなテント内に 入り、夕食準備が完了し乾杯となった のですが、ここで一つ問題勃発。鍋に 入れるはずの鶏肉が周りの荷物を確認 するも見あたらない。車に忘れている ことが発覚。直ぐに取りに行ける距離 だったので、寂しい晩餐を免れました。

(原さん、美味しい水炊き鍋ご馳走様 でした。)

日が落ち、森永さん持参の極太ロウ ソクの炎がともったテント内は十分な 明るさと暖かさがあり、酌み交わす杯



テント設営

も増すごとに、諸先輩方の山のウンチ クで盛り上がります。

生涯山の現役を自負する諸先輩方の 話は、私にとって一つ一つが大事な山 の財産となりました。



野 んの 冠

そして、宴もたけなわの時、本日の 主役が登場。仕事の都合で夕刻から参 加となった原野さんで、今年2月8日 で60歳を迎えるとのことで「冠山還暦 祝い」の始まりです。内藤さん持参の シャンパンで乾杯した後は、原野さん のガマの油売り第2段の口上も冴えて 更に盛り上がり、最後は篠田さんの渋 味が効いた山の歌にみんなで手拍子を 打ち、日にちが変わった後、雪上テン トの熱い夜がお開きとなりました。

翌朝5時30分に起床、雑炊で朝食を 済ませ、各自出発準備に取りかかり、 ワカンを履いて完了です。私は、篠田 さんから手作りの木製ワカンを借り て装着しました。

午前7時すぎ、あいにくの小雪混じ りの曇り空の中テント場を出発、ロン グトレイルの国体ルートを進みます。 いきなりの新雪急坂、さらに急斜面の トラバースで大粒の汗が吹き出すしま す。ひと登りして稜線に出ると斜面が 緩やかになり、ワカンはとても歩きや



すくなりました。しかし、ラッセル登 山となるため先頭を交代しながら進み ます。時折日差しが射して周囲の山々 への視界も良くなり、そして木立に付 いた樹氷や雪が輝き出しました。感動 の雪景色を堪能しながらの雪山ワカン トレッキングです。まるで「山と渓谷2 月号」の写真に掲載されているような風 景です。歩き出して約4時間、クルソン 第 2 8号

岩を間近に見える尾根を過ぎ、頂上付近の輝く霧氷に覆われた冠を見上げる頃になると疲れも少しづつでて出来ました。(しかし、日本百名山完登で鍛えた太田さん、昨日も福智山に登ってきたとのことですが、足取りがとても軽いのです。)



そして、追い打ちをかけるように最後の急登が待っていました。道無き急斜面を膝上ラッセルしながらジグザグに進むと、ブナの大木に付いた霧氷や雪の輝きは更に増し、何とも言い表せないくらい幻想的な世界で、息を整えつつ味わいました。

そして出発から約4時間半後の午前1 1時30分、霧氷の木々に囲まれた人



冠山(1339m)頂上

の踏み跡のない無垢の頂上に到着するこ とができました。

雪の無いときは頭上に位置する頂上看板が、今日は腰くらいに位置し、軽く1 メートル以上の積雪があることを示しているそうです。

頂上では、篠田さんが風が当た



稜線から冠山頂上を望む

らない場所に雪用ショベルで整地 して食事の場所を確保してくれま した。霧氷に輝く木々と白い山々 を観ながら各自暖かいものをつく り昼食となったのですが、私達の 食事中に続々と日帰りのパーティ ーが到着し、頂上はあっという間 に満員となりました。

帰りは、頂上直下の急斜面を歓声を 上げながらシリセードで滑り降り、転 がるようにしながら約2時間で一般ル ートをテント場まで下りました。

手際よくテントを撤収し、山口県の 県境に位置する柿木温泉に浸かり解散 となりました。

今回、初めての雪上幕営と雪山 ワカン登山体験で、皆様から多く の教えをいただき大変勉強になり ました。自分自身の登山に、少し ですが前進できたよう

な気がします。CLの篠田さんをは

じめ諸先輩の皆様、有意義な山行を本 当に有難う御座いました。この場をか りて御礼申し上げます。

参加メンバー(計10人) 行 CL 11467 篠 田勝 11990 原 広 13520 西 子 信 13810 西 俊 13819 太 満 田 13983 森 義 忠 永 13987 宮 尚 志 13991 中 村 昭 彦 14079 内 美 正



冠山頂上からの風景

### ◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

#### 一般登山客と大いに盛り上がる!

九重法華院温泉山荘

平山会長を迎えての山荘威獣祭

事務局 関 口 興 洋

3月4日(土)午後1時、長者原で平山会長をお出迎

えする

晴天、無風の下、硫黄山の白い噴煙が真っ直ぐ青空に吸い 込まれるように高く上がっている。これを背景に記念写真を とった後、2班に分かれ、目的地の法華院温泉山荘に向かう。

会長、支部長組は伊藤さんの案内で吉部より大船林道へ。 他のメンバーは日向さんの案内で、すがもり越えから北千里 へのコースをとり法華院へ入る。途中、マンサクの花に出会



山荘の主人弘蔵氏(最前列右から二人目)や平山会長、 一般客を交えての感謝祭(山荘の食堂で)

#### い九重の早春に触れる。

今日は偶々、山荘の感謝祭ということで客がお酒と酒肴を持参する慣わしになっている。山荘の弘蔵オーナーのご挨拶とともに今宵の宴が始まる。わが陣営のメインは湯布院で仕入れた豊後牛のシャブシャブである。さすが名に恥じぬおいしさで3kg強の肉があっというまに19人の胃の腑におさまる。それとともに、かねて準備のもろもろのお酒が酌み交わされ、懇親の度が深まっていくのでありました。部屋に引き上げてからはもちろん、あちこちで二次会が開かれ盛り上がっていくのはお定まりのコースでした。冬空にはオリオンが静かに輝いていた。

3月5日(日)、今朝も快晴。朝食後、会長、支部長とともに、わずかに残る雪を踏みしめ北千里へ出る。今朝は北からの風があるせいか、噴煙は高く上がらず横に這っている。山にきて最高のご馳走は、なにをおいても雨に降られないことにつきる。

すがもり越えでのんびりと記念写真をとりながら長者原を目指す。泥濘を避けるため、ショートカットには入らず、道路(車道)をのんびりと下る。道際には見事な馬酔木が連なり、会長も感心されていた。

11:00 長者原に無事到着。ここで、大分空港へ向かう会 長、をお見送りし解散する。

#### 参加者(19人)

4440	平山 喜	善吉 (会長)	13643	関口	興洋
4325	秦野 -	一彦 (支部長)	13722	藤田	傳
11427	日向 老	羊剛	13810	西村	俊二
11979	大城戸昌	昌敏	13986	室津	健次
11990	原	5美	13992	山田	武史
13465	大楠 孟	金弘	14199	大石そ	なえ
13471	板倉	建一	北九327	田中	峻
13499	伊藤久と	欠郎	北九324	小林	冨雄
13520	西村 作	言子	会 友	小林庄	1紀子
13541	高畠	石生			

#### 支部長・支部事務局担当者会議の報告

事務局 関口 興洋

2月25日~26日、富士吉田市で開催された会議に支部 長とともに出席しましたので、以下簡単に報告します。

1. 平山会長より、「日本山岳会の新たな100年に向けて」現状と課題につき講演が行われた。会長の所信表明は、本年1月号の「山」に掲載されていますので

ご覧ください。

#### <目標と課題>

- (1) 活性化のために早期に実行すべきもの
  - 組織の改革
  - 若年層の起用、高齢者の活用
  - 委員会、委員長の任期制(固定化に伴う弊害の 懸念─ 新陳代謝による活性化)
  - 委員会の統廃合
  - 事務局体制の整備、強化(本部に事務局長をおくこととし、現在人選中)
  - 登山の奨励(海外、学生、高齢者登山)
- (2) 中期目標の設定
  - 公益法人改革への対応

平成18年通常国会で、公益法人制度改革関連法案が成立する見込みである。その結果、現在の全ての社団・財団法人、中間法人(同窓会など)を廃止し、代わりに「非営利法人」とし、特に公益性が高いと認めた法人に限って税制優遇を認める。公益性の判断は第三者機関によって行われる。

JACとしては、過去100年にわたる歴史、活動内容等から「公益非営利法人」を目指し、公益法人改革に対応するプロジェクト・チームを結成する。

- サービス部門の法人化 (NP0)
- ルームの改装、クラブ・ルームの設置
- (3) 長期目標
  - 会員減少による収入減対策
  - 図書室の拡充
  - 新クラブ・ルームの購入(基金の設定)

以上

#### 会員の現況

(日18.3.1現在)

本部会員 82 人 支部会員 74 人 合計 156 人

#### 新会員 (H17.1.12~H18.2.28)

本部会員

秀明 宇部市 No.14195 和 田 No.14199 そなえ 八女市 大 石 No.14206 中 畄 邦 男 直方市 支部会員 No.北九393 美 幸 宇部市 前 田 No.北九395 門司区 丹 下 洽 香代子 No.北九396 丹 下 門司区 No.北九397 篠栗町 傍 弘 No.北九398 中 山 幸 直方市

#### 訃報

山 村 康 一 (永年会員 No.4294) 下関市 昨年10月、永年会員として顕彰された山村会員 が、本年1月25日ご逝去されました。

楠 田 和 彦(No.13994)八幡東区 グリーン・レンジャー副代表の楠田会員が、3月 11日早朝、肝臓ガンのため急逝されました。

会員一同、謹んでお二人のご冥福をお祈りいた します。合掌

### ヴォランテイア活動への参加呼びかけ

豊前市役所は雁股山〜野峠間の九州自然歩道の整備 事業の一環として、大型の道標8個を設置する計画を 進めている。この設置にあたり、当支部の協力を求め られております。

すでに現地調査をかね、二回入山していますが、あ と数回は入山する必要があり、平日参加できる方を募 集しています。是非ご参加を!!

実施日は天候をにらみながらかつ市役所とも打ち合

わせながら進めますので、現時点では確定できません。実 施日が確定しましたら参加者には都度、事務局から連絡い たします。

問い合わせ先:事務局 関口まで

TEL • FAX 093-382-6436

### 山行計画のご案内

### 4月の山行

#### <u>① 犬ガ岳山域(倒木伐採登山)4月15日(土)</u>

集合時刻 4月15日(土) 9:30 集合場所 犬ガ岳登山口駐車場

交通手段 自家用車

<行事> ウグイス谷登山道の途中に(駐車場から15分 程度) 風倒木が3本あり。豊前市役所より4月末の山開 き前に、登山道の整備をしたいので協力してほしいとの 要請を受けています。営林当局の許可も得ているので、 当日の参加者で整備したいと思います。持参の道具は参 加者が決定した後、打ち合わせます。

その後、時間に余裕があれば登山。

申込先 事務局、関口までFAXでお願いします。 093-382-6436

切 4月7日(金)

#### カタクリの冠山 (1339m)広島県 4月29日(土)

H 程 H18年4月29日(土曜日、祭日)

集 合 6:50 小倉KMMビル

門司駅前(駐車場は門司駅裏サッポ 7:10ロビール工場跡地にあり、国道199から入れます) 山口会員は玉姫殿前の駐車場

交 通 マイクロバスにて高速道路下関IC~六日市IC ~深谷公園~冠高原

コース 松ノ木峠〜冠山山頂〜後冠山 時間があれば温泉入浴あり

費 用 3,000円位

申 込 CL 原広美 0832-45-5490 FAX又ははがき

〆 切 4月8日まで

### 5月の山行

#### 石楠花の岳滅鬼山(1041m) 5月8日 (月)

犬ヶ岳ほどメジャーではありませんが、穴場です。 静かな山行が出来ます。

集合場所・・・・JR彦山駅 8日、8時45分

参加費・・・・・500円

申込先・・・・・西村信子まで

電話かFAXで TEL (FAX) 0930-33-4618

締切・・・・・4月22日 (土)

### ② 英彦山 前夜祭と山開き(添田町共催)

Aコース(前夜祭、懇親会、登山、神事)

5月27日午後5時 集合

英彦山・アドベンチャーセンター森の家 場所

費用 8000円(宿泊代、懇親会含む。弁当代は別)

Bコース(登山と山開き神事)

5月28日午前8時

場 所 「銅の鳥居」前

行 程 銅の鳥居→奉幣殿→中岳上宮(山開き神事・昼食) →往路(又は北岳→高住神社経由下山)

携行品 雨具、水筒、弁当ほか。雨天決行 参加申込 日向まで 090-3320-7848

### 6月の山行

#### <u>上高地ウェストン祭60周年記念と焼岳(2455m)登山</u>

期 日 6月2日(金)~4日(日)2泊3日

目的地 焼岳 (2455m) ~上高地

行程 6/2 北九州空港~名古屋(小牧)~名古屋駅~松 本駅~新島々~中ノ湯温泉(泊)

> 6/3 中ノ湯(登り4時間)焼岳(下り3時間) 上高地(アルペンホテル伯)

> 6/4 第60回上高地ウエストン祭参加、打ち上げ パーテイ後、帰路につく。

ただし、名古屋発の北九州行き最終フライトは17:15発で これには間に合わないので名古屋から小倉まで新幹線を利用。

費用概算 交通費約46,000円、宿泊費約19,000円 合計65,000円

申込先 事務局、関口までFAXでお願いします。093-382-6436 〆 切 4月1日(土) 航空券の特割適用を受けるために2

ヶ月前とします。

#### 岡山・鳥取県境に横たわる那岐連邦

#### 那岐山 (1250m) 「岡山県奈義町」 6月10日出、11日(日) キャンプ場にてテント泊

集合時間 10日 9:00 (山口会員は9:30玉姫殿前の駐車場)

集合場所 門司駅(駐車場は門司駅裏サッポロビール工場跡地)

通 マイカー 下関IC~津山ICまで高速→奈義町高 円まで国道53号

登りCコース 下りBコース 行程4時間15分 コース

実費 約8,000円位 (下関IC~津山IC高速) 費用

申 込 原広美 0832-45-5490 FAX又ははがき

X 切 5月10日

毎月第4水曜日

時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

編集後記 ○今月から山行計画が、いつのまにやら1カ月2回の計画になりました。おかげで会報の 完成が遅くなりました。計画担当者がすぐに計画を送ってくれれ ば問題ないのですが。会報担当としては、誠に困るのです。山行

○山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は〒826-0032 田 川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、nkchb785@ybb.ne.jp です。

計画担当者は、なるべく早くお願いします。